

# 堺市教育研究論文推進事業



## DATA

- 主な連携先・メンバー  
堺市教育委員会事務局学校教育部学校指導課 / 堺市教育会
- 活動地域  
大阪府堺市
- 活動期間  
2017年度～継続中
- 活動資金  
堺市と関西大学との地域連携事業

## 活動の目的

- 1 堺市教員の指導力及び見識の向上
- 2 優れた教育実践を全市で共有し、豊かな心・健やかな体の育成、そして自ら学び、学んだことを社会で生かす幅広い学力の向上



## 連携にいたる経緯

明治18年に発足した『堺市教育会』は、1949年から2004年まで55年にわたり小・中・高等学校教員を対象に教育研究論文を募集してきた。この事業は諸事情により中断していたが、2017年から関西大学と堺市との地域連携事業として復活。大学教員による専門的な研究指導や研修会、論文審査を通して堺市の先生方の研究成果発表の場の提供、意欲喚起、教育実践力向上にも貢献している。

## 活動内容

本事業は、堺市教員を対象に教育研究論文を募集し、教育実践研修の実施をとおして教員の育成等を行うものである。教育実践研修会では、本学部教授等を招聘し、専門的な見地からの指導により、教員の力量向上を図るとともに、大学と学校現場との連携の在り方を検討する。集まった研究論文に関しては、事業代表者をはじめとした元校長等による審査を行い、指導・講評そして表彰を実施し、最後に論文文集を作成・配布している。

### 『実践に基づく教育論文の書き方講座』

- ・教育研究論文の書き方についての講演(研究に向けての課題意識、研究方法、結果の考察等)
- ・講演内容についての質疑応答

### 『堺市教育研究論文報告会』

- ・堺市教育研究論文受賞者の発表
- ・最優秀論文の研究報告

## 活動の成果

- 1 論文の書き方について、研究方法など理論を踏まえた講演を実施したことにより、参加した教員は理論と実践とを往還することが大切であると認識することができた
- 2 2018年度、幼小の各校種から提出された4件の論文は全て、児童と向き合う中で課題意識をもち、実践を積み重ねて作成されたものであり、全市で共有するのにふさわしい論文が集まつた
- 3 仮説検証型の論文だけでなく、意欲的な実践が具体的かつ丁寧に記述されるようになった。先生方自身の力づけとなり、今後の教育実践をより良きものとする意欲を掻き立てることに繋がった

## 今後の課題・目標

- 1 よりよい教育研究論文にするため、教員が研究方法や論文の書き方などを理解する必要がある。今後も大学教授による講演会を実施し、広く参加を呼びかけていく
- 2 実践研究を行い、論文執筆を進めるためには、執筆の過程において助言者が必要となるため、執筆者の支援策を考える必要がある
- 3 各学校園に配布している論文集を活用し、論文の書き方講座、論文報告会への参加者、論文応募者、論文提出者の増加を目指す

## 教員紹介



■ 人間健康学部 教授

村川治彦  
Haruhiko Murakawa

東京大学文学部(宗教学宗教史学科)を卒業後、米国に留学し California Institute of Integral Studiesで東西の身体技法と比較思想を学ぶ。博士論文で取り上げた「気」の研究をきっかけに、言語による体験の深化に関心をもつ。キルケゴーの「人生は振り返らなければ理解できないが、前を向かなければ進んで行かない」をモットーに、日常の様々な実践活動で経験したことを言語化し、反省し、共有するプロセスを教育活動に取り入れる試みを続けている。